

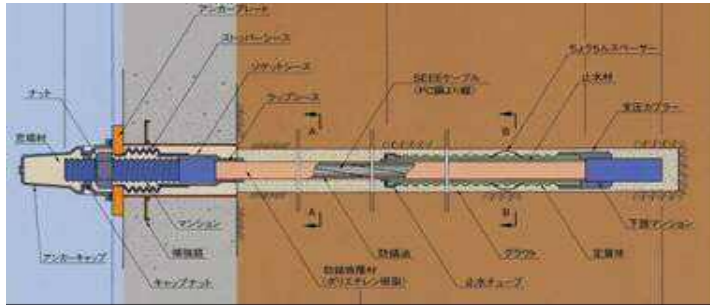
技術概要書（様式）

※別紙2

出展技術の分類	<input checked="" type="radio"/> 安全・防災 <input type="radio"/> インフラDX <input type="radio"/> 維持管理 <input type="radio"/> 環境 <input type="radio"/> コスト <input type="radio"/> 品質 （該当分類に○を付記）		
技術名称	SEEE永久グラウトアンカー工法	担当部署	九州支店
NETIS登録番号	旧KT-990309-VE	担当者	大庭 英司
社名等	(株)エスイー	電話番号	092-473-0191
技術の概要	1. 技術開発の背景及び契機 永久アンカーに求められる機能は、長期にわたる耐久性である。長い歴史と多数の実績を有するSEE Eアンカー技術を基礎に腐食環境が厳しいと考えられる場所にも供用可能な、耐久性、耐食性に優れ、材料的にも構造的にも長期にわたる信頼性を維持できるアンカーシステムを開発した。		
	2. 技術の内容 SEEE永久アンカー工法は、1968年にフランスからプレストレストコンクリートの定着工法として導入し、グラウトアンカー用に改良、開発した、ナット定着方式圧縮型アンカー工法である。SEEE永久アンカー工法はアンカー tendon を長期間にわたって腐食から護るために、全長を地盤工学会に定められた永久アンカーの構造にするとともに、近年では新技術を導入し、改良を重ね、 tendon 及び削孔径の細径化を実現して建設工事費の縮減も実現したアンカー工法である。		
	3. 技術の効果 ①. アンカーの細径化は、材料のコストダウンを促し、削孔の細径化を可能にして、工費の縮減を実現した。 ②. tendon はフレキシブルな構造で、二重防食加工が施されており、耐久性に極めて優れている。 ③. 圧縮型アンカーの特性により、グラウトは全長にわたり圧縮力を受けるため、テンションクラックが生じず、グラウトが防食の一つとして有効に働く。 ④. 定着具がネジ式なので、定着が確実に行え、また再緊張、除荷といったメンテナンスも容易である。		
	4. 技術の適用範囲 ①. 適用可能な範囲 ・アンカー設計荷重1096.2kN/本まで対応できる ・組み合わせる反力体の形式は問わない ②. 特に効果の高い適用範囲 ・アンカーの維持管理が必要な場合 ・耐震補強アンカー		
	5. 活用実績 国の機関 840件（九州 324件、九州以外 516件） 自治体 8853件（九州 2869件、九州以外 5984件） 民間 393件（九州 116件、九州以外 277件）		

6. 写真・図・表

SEEE永久グラウンドアンカー工法の概要図(ダブルアンカーU型)



施工手順

①削孔

所定の角度で定着地盤まで削孔する。

②グラウト注入

注入パイプを挿入してグラウトを注入する。

③テンドン挿入

④加圧注入(ケーシング引抜き)

ケーシングを所定の位置まで引抜き、加圧注入する。

⑤緊張

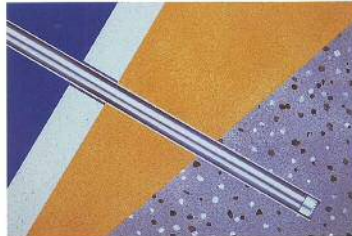
グラウトが所定の強度に達したところで、緊張作業を行う。プレート背面防食のために、ストップパースを取り付け、緊張力とアンカー頭部変位を確認しながら緊張作業を行う。

⑥頭部処理・完成

定着されたアンカー頭部にアンカーキャップを取り付け、防錆処理を行い作業が完了する。

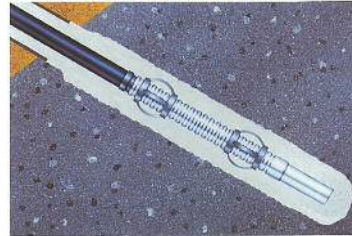
1. 削孔

所定の角度で定着地盤まで削孔します。



4. 加圧注入(ケーシング引抜き)

ケーシングを所定の位置まで引抜きます。



2. グラウト注入

注入パイプを挿入してグラウトを注入します。



5. 緊張

グラウトが所定の強度に達した所で、緊張作業を行います。プレート背面防食のために、ストップパースを取り付け、緊張力とアンカー頭部の変位を確認しながら緊張作業を行います。



3. テンドン挿入



6. 頭部処理・完成

定着されたアンカー頭部にアンカーキャップを取付け、防錆処理を行い作業が完了します。

